

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年3月18日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691000055
法人名	有限会社 童里夢
事業所名	グループホーム どりーむ大山
所在地	鹿児島県指宿市山川大山2951番地 (電話) 0993-35-0280
自己評価作成日	平成28年2月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成28年3月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・開所から5年目を迎えようとしていますが、当初からの利用者はおられなくなってしまいました。しかし、それぞれの利用者と職員は馴染みの関係となり、信頼関係を築けています。

・施設は、地元の大山集落自治会に加入しており、大山出身の利用者も居られます。利用者と共に、地区のバザーへ参加したり、近所の美容院を利用したり、近隣の方々と災害時の協力隊を編成していただき交流したりと、地域密着に努めております。更に地域の方々の意見やアドバイスを頂きながら、溶け込んでいきたいと思っております。

・食事も、たまには選択出来るメニューを考えたり、嫌いな物は差し替えたり等、個別対応するよう考えています。ご家族や近所から頂いた食材で、季節感のある食事を、出来る利用者には手伝って頂き一緒に作っています。

・ご家族との信頼関係も、面会時の会話や状態説明、毎月の『生活状況のお知らせ』等で築いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・当事業所は自然にも恵まれた大山集落の住宅地に立地している。周辺には、郵便局やコンビニエンスストア、公園などもあり、民家も多い。散歩や買い物の際には多くの人と挨拶を交わしたり野菜をもらったり、ふれあいながら生活できる環境にある。

・自治会に加入し、回覧板等で情報を得ながら、地域の一員として積極的に交流している。

・災害対策として定期的な避難訓練と地区の自主防災協力隊との交流をするなど、地域との協力体制もできている。

・代表者や管理者は話しやすい環境を整えて、職員の意見や提案を積極的に反映させている。職員は離職者も少なく、職員間のコミュニケーションも図られ、利用者や家族からも信頼されている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝ミーティング時に理念を確認し合い、共有と実践に努めている。	理念は、地域との関連性を重視した独自のものでホールに掲げ、朝の申し送り時に唱和している。ミーティング等で振り返り、理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	事業所は自治会に加入している。様々な行事は勿論、利用者と一緒に散歩や買い物時など、挨拶や会話を交わして日常的に交流している。	自治会に加入し、回覧板等で地域と情報を共有している。地区の総会や六月灯などの地域の行事にも積極的に参加している。散歩や買い物際には挨拶や会話を交わし、日常的に交流している。ボランティアの受け入れなども行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	近所や地域の方々との談話や直接の相談に対して、親身な対応に心掛け、協力を努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催して、状況報告を行っている。参加者（利用者家族・地元民生委員）から、地域の情報や活動についてのご提言を頂き、地域との交流や利用者への支援に生かしている。	会議は定期的に行っている。事業所の状況や活動報告・外部評価の報告等を行い、参加者から多くの助言や提案が出され、会議での情報を職員で共有してサービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議や実地指導の機会を使って、いろいろな情報やアドバイスを頂いている。	市担当者とは、日頃から電話や窓口に出向き、利用者の相談や情報を交換してアドバイスを貰っている。介護保険などの相談もしている。市主催の研修にも積極的に参加して協力関係にある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体の動きを抑制するような拘束の実施は無い。利用者と思いの疎通を図りながら、安全に配慮し支援している。玄関の施錠は、夜間の防犯目的のみである。	身体拘束廃止推進委員会があり、事例を出して勉強会を実施している。マニュアルを基に日々の業務の中でもそのつど話し合っている。言葉にも注意して慣れ合いにならないようにしている。言葉による場合も含め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠も昼間は開放し、玄関から外に出て行く利用者がいても、寄り添い散歩に切り替えて支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	打撲や皮内出血等は、発見者が記録に残し、皆で原因究明や再発防止の検討を行い、介護の統一を図っている。同系列の3施設で毎月1回合同研修会を開催し、皆積極的に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	市の担当者や関係機関と連携を取り、相談したりアドバイスを頂いたりしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所時に、重要事項説明書を基に、契約の締結や解除についての説明を行い、理解を得ている。また解約に際しては、ご本人・ご家族と十分に話し合い、理解と納得を頂くよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族の面会時には、管理者及び当日勤務の職員が、報告だけでなく要望やご意見も伺うよう努めている。利用者の要望やご意見も、日常の会話の中で聞いている。	利用者からは日々の関わりの中で意見や要望を聞き、思いを把握している。家族からは面会や電話・運営推進会議の参加時に意見を出してもらう工夫をしている。毎月、写真入りのホーム便りを送付して家族に行事や活動の状況を報告し意見を聞いている。出された意見や要望は職員で話し合い、日々のケアに反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>問題提起や提案事項は、朝の申し送りの時間や昼休みなどに、職員・管理者が話し合っ、運営に反映している。毎月開催の職員会議でも、丁寧な意見交換を行っている。</p>	<p>管理者は日頃から職員とのコミュニケーションを図り、昼休み時や会議等で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。相談事は個別に聞き適切にアドバイスをしている。職員の提案で利用者が退院後の機能低下に伴い介護用ベルトを着用するなど意見を反映させている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>緊急時や希望勤務の調整を行い、生活とのバランスに気を配っている。資格取得に関する支援を行ったり、個々の努力や意欲が報われるように努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の力量や研修の内容に合わせて、代表者が管理者と話し合い、外部研修を受ける機会を確保している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県はもとより、薩摩半島地区や指宿地区のGH協議会に入会・交流し、学びや気付きを得ながら、サービスの向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員は、利用者の生活歴・既往歴など把握した上で、本人の話を傾聴し、笑顔で穏やかに対応することで、安心して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込みの時から、ご家族の相談に親身になって対応し、入所時には更に詳しく要望に耳を傾けることで、初期の信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用開始時の面接で本人やご家族にお話を伺い、サマリー・主治医意見書などの情報も含めて職員で話し合い、必要な支援を提言し、提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者が一緒に作業や物作りをしたり、会話を重ねることで、本人のライフスタイルの理解に努め、毎日の生活を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族は利用者にとって、一番身近で大切な存在である。利用者をより深く理解していく為にも、職員は生活状況を毎月書いてお渡ししたり、面会時に積極的に会話したりして、信頼関係を築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔馴染みの美容院に行ったり、馴染みの方に面会の声掛けをしたりして、関係の継続を支援している。 地元の文化祭・六月灯の行事等を、ビデオにて視聴している。	親戚や友人知人の訪問を奨励し、行きつけの理美容院の利用や自宅訪問などにもでかけ、関係が途切れないよう働きかけている。電話や手紙の取次ぎなども行っている。家族の協力での外出や外食・墓参りなどの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションを一緒に行ったり、職員も間に入って共通の話題で盛り上がりたりすることによって、利用者同士の会話も出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた利用者の初盆に参ったり、入院退所された利用者のお見舞いに伺い、ご家族とも話をさせていただき、相談があれば伺っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	心掛けて会話をする時間を作り、本人の要望や不安・不満などを把握するよう努めている。困難な要望にも丁寧に対応している。	利用者への日々の関わりの中で要望や不安を聞いたり、表情などから思いや意向の把握に努めている。意思疎通が難しい場合は、家族の面談の時、生活歴など聞いて情報収集して、その人らしい生活ができるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話やご家族とお話の中から、細かな情報も収集していくよう努めている。大事な情報は記録し、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の支援の中で必要に応じて職員間で検討・協議し、変化や状態の把握に努めている。朝夕の申し送り時やミーティングなどで、情報の共有を図っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の介護の中で得た情報やアイデア、ご家族との会話からの情報・要望など、職員間で共有し検討して、計画を作成している。	本人や家族の意向を確認し、主治医の意見も取り入れ、職員で話し合い、個々に応じた介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、必要時に見直している。状況が変化した時は現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別記録と介護日誌は、すぐ手に取れる場所に置き、いつでも情報の共有が出来る。共有した情報を、ケアの計画・実践・見直しに役立てている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>盆・正月帰省や墓参り時などの送迎や付添い、空き家となって荒廃した自宅の、近隣住民・集落長に話を聴き環境整備を行うなど、個別支援に努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域行事（ふるさと市・六月灯など）へ、職員と一緒に参加して、安心・安全に豊かな暮らしを楽しんで頂けるよう努めている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人・家族の希望に沿った、かかりつけ医となっている。受信や往診時には職員が付き添い、普段の様子や変化などを伝えている。</p>	<p>契約時に今までのかかりつけ医を確認して、継続希望があれば、希望通りに支援している。受診は職員が付き添い、家族に受診結果を報告している。緊急時の対応などに連携を取りながら適切な医療が受けられるように支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>利用者の変化に気付いたら看護師に報告し、職員・管理者・かかりつけ医などと、連携を取り合って対応している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者の入院時には、情報の提供を口頭や文書にて行い、入院中も症状の確認をして、ご家族にも伝えている。退院時は医師の指示や看護要約を頂き、細かく情報交換を行う事で、信頼関係を築いている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時に、重度化時の意向をご家族に伺っている。ターミナルケアについては、必要時に相談を行っている。</p>	<p>入所時に重度化した場合や終末期に伴う対応の指針を説明し、同意書を貰っている。状況変化に伴い随時話し合い、医師や看護師などと連携して家族と方向性を共有できるよう取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的ではないが、応急手当や初期対応など、緊急対応の訓練を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に避難訓練を行い、緊急時にスムーズに動けるように訓練している。地区の自主防災協力隊の方々との訓練も、年1回行っている。</p>	<p>年2回消防署立会いのもと、昼夜想定避難訓練を実施している。年1回、地区の自主防災協力隊との訓練も実施している。地域住民との協力体制もできている。災害時の水やインスタント食品、缶詰、レトルト食品などを備蓄しガスコンロや防災グッズも用意し防災機器の定期点検をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>利用者一人ひとりに合った言葉づかい、尊重した言葉遣いに努めている。また、ドアを閉めたりノックをしたり、当然の配慮を忘れないよう心掛け、馴れ合いにならないよう努めている。</p>	<p>利用者の人格を尊重する言葉かけや対応に留意している。トイレ誘導はさりげなく行い、居室へはノックして声かけして了解を得て入室している。利用者に声かけする時は必ず「さん」づけで呼んでいる。プライバシーを損ねない対応を行っている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>ケアマネや担当職員を中心に、本人の思いや希望を引き出せるよう、意識して会話している。そして、範囲はあるが出来るだけ本人の自己決定を尊重している。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>「何時でも自由に」「家で過ごしているような雰囲気」と思って支援している。入浴や外出の希望にも、出来るだけ対応できるように努めている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>化粧品の販売をしておられたり、毛染めやパーマをしたかったり、その人の生活歴や想いを大切にして、清潔な身だしなみを支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を活用し、下ごしらえ・片付けなどを手伝っていたりしている。食事は職員も一緒に、会話しながら楽しく召し上がって頂いている。	旬の食材で利用者の希望に添った献立と食事形態を工夫している。利用者の力量に応じて玉ねぎや野菜の皮むき・準備を一緒に行うこともある。遠足や花見の時は煮しめやさねん葉包みのおにぎり・茶節などを持参してみんなで楽しんでいる。保存食作りもしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューを基に、一人ひとりの摂取量・必要量を考慮している。不足分は、補助食品など取り入れている。水分も様々な飲み物を提供し、必要量を確保出来るよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨き・うがいを行っていただき、出来ない方は職員が支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のパターンを把握して、本人が訴えない時は、職員が声を掛けてトイレに行って頂くなどの支援を行い、おむつ外しを心掛けている。	排泄パターンや習慣を把握し、声かけや誘導によるトイレでの排泄を大切にしている。オムツを外す取り組みや排泄の自立を支援している。失禁した利用者がいても周りに気づかれないように清拭したり清潔保持に心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認と下剤の調整状況の情報共有を行い、便秘の原因や改善方法の検討に努めている。間食に芋類を取り入れ、水分量確保の工夫にも努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	声掛けやタイミングを工夫したり、入浴拒否が続くときは、足浴や陰部洗浄の支援に変えるなどして、不快感が生じないように、また気分転換が出来るように努めている。	入浴は週3回を基本にしているが希望があればいつでも柔軟に対応している。入浴剤も利用している。近所の温泉に家族と行く利用者もいる。入浴を拒む利用者には声かけや時間調整など職員の連携で、個々に応じた入浴の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室での休息はいつでも対応し、フロアのソファや畳でも、自由にくつろいで頂ける。夜間の不眠時には、声掛けや付添う事で、安心できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者毎の内服説明書を1冊にまとめ、何時でも誰でも確認出来るよう、看護資格を持った職員が中心になって管理している。そして、確実な服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや掃除の手伝い、食材の下ごしらえや後片付け等で、役割や張り合いのある日々を、個々の誕生会や忘年会夏祭り・散歩などで、楽しみや気分転換の支援に努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩が困難な方も、庭の散策や外気浴の支援を行っている。ドライブを兼ねて、自施設（他事業所）に体重測定に出掛けている。	日常的には周辺の散歩や外気浴を楽しんでいる。計画を立てて花見や神社の六月灯・運動会・定期演奏会・外食・ソーメン流しなどに職員と一緒に出かけている。家族の協力で外食や外出・墓参などにも支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	『預かり金管理規定』及び『保管依頼（契約）書』を作成し、管理している。現在2名の方が買い物などの希望があるので、同行し支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	一方通行ではあるが、県外におられる家族に書いた手紙を、職員が書いた近況報告と一緒に出ししている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾付けや行事写真などの設営を行い、浴室・トイレなどは分るように張り紙をしている。共用の空間は温・湿度計を設置し、気を付けて空気の入れ換えを行っている	共用の空間は天井が高く開放的である。採光や換気、温度・湿度など、エアコンや空気清浄機・加湿器で調整され快適な環境になっている。ホールには季節感を大事にした飾りつけがなされている。和室のコーナーもある。ソファも多く居心地よく過ごせるような工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フローアータブルの形や座席も、心地よく過ごせるよう工夫・検討している。一人にもなれるよう、ソファやベンチを置いて配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	位牌を置いたり洋服掛けを置いたり、ベッドやタンスについても、ご希望に合わせて配慮している。	居室はベッドやタンスが備え付けである。自宅から家族の写真や寝具・位牌・タンスなどが思い思いに持ち込まれ、家族と相談して居心地の良い個性ある居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ADLや認知度の変化に応じて居室の変更を行っている。トイレや居室の入口に名前や飾りを付けることで、迷って不安になったり、他者に迷惑を掛けないように、利用者と一緒に考え工夫している。（半年に1回、長谷川式認知度スケール実施）		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
		○	3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない